

contents

- ・三鷹市老人クラブで講演
- ・MRI 導入
- ・在宅医療を推進
- ・診療科紹介 形成外科・美容外科
- ・検体検査室を統合移転
- ・看護師の裁量拡大へ
- ・看護外来相談の研修施設に認定・集中ケア認定看護師入学式
- ・外来診療休診のお知らせ
- ・公開講演会、公開講座のご案内



【杏林大学医学部付属病院】
〒181-8611 三鷹市新川 6-20-2
Tel 0422-47-5511 (代表)
<http://www.kyorin-u.ac.jp/hospital>

■三鷹市老人クラブの集まりで「目の病気」について講演

当院では、三鷹市老人クラブ連合会と共催し、毎年健康に関する講演会を行っています。今回で5回目となる講演会には約120名が参加し、アイセンターの平形明人教授と、栄養部の村田美裕管理栄養士が「目の病気」をテーマに講演しました。

講演会では、来賓に招かれた三鷹市の清原慶子市長が、「杏林大学病院と老人クラブ連合会で、こうした講演会が開かれることは大変有意義なことです。本日の講演会が意義あるものとなることを願います」と挨拶を行いました。また、当院の甲能直幸病院長が、「三鷹市の健康長寿の街づくりに、病院として全力を挙げて協力していきたい。地域に立脚した病院を目指しています」と地域との連携を強調しました。

「健康と食事－目にやさしい食事－」をテーマに講演した村田美裕管理栄養士は、目によいとされる食べ物や適切な摂取量、バランスのよい食事を紹介し、「日ごろの食生活を見直し、本日の話を少しでも取り入れていただければと思います」と話しました。

平形教授は「高齢者に多い目の病気」をテーマに、動画や写真を多く使用し、病気の種類や症状、手術方法などをわかりやすく紹介しました。ときにユーモアも交えながら話をする平形教授の講演に、参加者からは笑い声が聞かれ、ときには頷いたりしながら真剣に聞き入っていました。

まとめに平形教授は、「早期発見、早期治療で後遺症を軽減できます」と述べ、片目ずつの見え方のチェックをしたり、糖尿病などの内科系疾患のある場合は、定期的に眼科を受診する大切さを伝えました。

次回は、2月に当院の甲能病院長が耳鼻咽喉科疾患についての講演を行う予定です。



■東京都在宅医療推進会議と 杏林大学医学部付属病院

杏林大学病院を退院する患者さんの20%が在宅医療やケアを必要としています。東京都ではこれからの医療として、在宅医療を重要な医療政策に位置づけ、この度「東京都在宅医療推進会議」を発足させ、当院の呉屋朝幸地域医療連携室長が副会長の任に当たることになりました。

当院でも急性期治療後も引き続き治療・ケアを必要としている患者さんが多いことから、特に「高齢者医療」、「がん」、「脳卒中」を中心に円滑かつきめ細やかな後方支援活動を強化していきます。

一方、地域の在宅医療の力を強化するために以前から分科会等で検討されてきましたが、平成22年より三鷹市・武蔵野市を中心とした地域の在宅医療が立ち上がり、「在宅医療・緩和ケアカンファレンス」が結成されました。地域医療連携室としては退院後の患者さんの支援のためにこの組織と協力して、「在宅医療」を進めています。

また、在宅医療を推進するために外来患者、入院患者とも利用できる在宅医療推進外来を第2・第4火曜日の午後4時から午後5時まで病院4階呼吸器外来で試行しています。このように急性期医療を担う大学病院としても在宅医療を推進・支援する取り組みを進めています。

なお、第5回在宅医療・緩和ケアカンファレンスを杏林大学病院に於いて11月9日(火)19時30分から大学院講堂にて開催いたします。参加申込み等は不要ですので、在宅医療にご関心のある方はお気軽にご参加ください。

問合せ先：地域医療連携室・在宅療養指導係(内線5145)

■外来診療休診のお知らせ

杏林学園創立記念日のため、11月11日(木)は外来診療を休診とさせていただきます。

救急の際は高度救命救急センターにて診療いたします。

■検体検査室を統合移転、 採血室と隣接し検査効率向上

院内3か所に分散していた輸血検査室や生化学検査室などの検体系の検査室が1か所に統合され、第1病棟地下1階で5月末から稼働を始めた。同時に、外来棟3階にあった外来採血室が検査室の隣に移転しました。検体検査はこれまで第2病棟や外来棟など数か所の検査室で行われていたが、検査の効率化を図るため、新棟建設に合わせて1か所に統合することになったもので、検査機器類もすべて最新のものに更新されました。これにより検査の精度や効率性が大幅に向上し、検査の進捗状況も刻々と把握できるようになりました。

また、検査室の統合・移転に合わせて、外来採血室を移転、採血した血液を隣接した検査室で直ちに処理できる体制を構築、迅速な結果報告を可能としました。新採血室では採血台も8台から11台に増設され、これまで外来患者数の多い時には30〜40分近く採血を待ち続けた状況が大幅に改善され、待ち時間も短縮されました。また、新採血室での待ち時間は、最大でも10分程度に緩和されています。また、採血台ごとに仕切り板が設けられ、プライバシーにも配慮された構造になっています。



検体検査室



外来採血室

■看護外来相談の 開設研修施設に認定

看護外来相談は、通常の外来受診後に、医師の治療方針に基づき、看護師が患者さんの日常生活、治療、療養についての相談に応じ、生活全般のケアや指導を行う専門相談のことです。

東京都では、地域における在宅療養患者の支援策として、この看護外来相談の普及を目指しており、看護外来相談を開設予定の医療機関のスタッフを対象に、開設研修を実施する研修施設を公募で募っていました。その結果、これまでの看護外来相談の実績が評価され、当院が順天堂大学の順天堂医院とともに東京都から研修施設に認定されました。

認定を受け、当院では11月14日から研修受講者を受け入れ、開設に向けた準備や運営管理のあり方、経営効果の講義や、実際の看護外来相談の見学実習(Ⅱ型研修希望者)を行うことになっています。

当院は、平成15年より、各分野に関する専門研修を終了した者による、看護外来を開設しており、現在は、ストーム・スキニング外来やフットケア外来など、11分野の看護外来相談を実施しています。21年度に各外来相談を訪れた患者さんは延べ5,365人に、積極的に活動しています。

診療科紹介

◆形成外科・美容外科

全国有数の規模を誇る診療科

当診療科は、10名以上の認定専門医が在籍し、年間約1000件の全身麻酔手術の実績があり、日本有数の規模を誇ります。当科の特徴的な診療領域として、陳旧性顔面神経麻痺の治療、シリコンや自家組織を使用した乳癌術後再建術、頭頸部癌切除後再建、顔面多発骨折、切断指再接着などの手の外傷、重症熱傷、糖尿病性壊疽・重症下肢虚血などの難治性潰瘍、血管腫・血管奇形、皮膚腫瘍、唇裂口蓋裂などの先天性体表異常、頭蓋顔面外科手術、7種類のレーザーを有するレーザー治療、眼瞼下垂症や脂肪吸引等の美容医療など、多くの分野に渡ります。さらに専門外来としてブレスト、下肢救済フットケア、血管腫、レーザー、クラニオ外來を開設しています。また切断指、外傷・感染・壊疽などの緊急を要する症例のご紹介も365日24時間対応しております。地域医療に貢献するべく、常に第一線の質の高い医療を提供できるように心がけております。

■看護師の裁量拡大へ

―丹波皮膚・排泄ケア認定看護師の活動が、産経新聞で紹介される―

当院の丹波光子皮膚・排泄ケア認定看護師の活動が、産経新聞（平成22年9月23日付）に掲載されたので記事を要約・抜粋してご紹介いたします。

「特定看護師」（仮称）を創設し、看護師が「診療の補助」としてできる範囲外とされてきた高度な「医療行為」でも、実務経験豊富な看護師に医学的な教育を行うことで、一部可能にしようと、国で議論が進んでいます。

丹波看護師は、当院で入院患者の褥瘡（床ずれ）管理を担う対策チームのリーダー。褥瘡回診では、医師からあらかじめ大まかな指示を受けておき、「診療の補助」をしているが、昨年東大で、褥瘡を覆う被覆材の選択や褥瘡の壊死組織を切り取る「創傷デブリードマン技術」「陰圧閉鎖療法」などの医療技術教育（105時間）を受けました。

褥瘡の悪化は早く、医師は多忙。看護師が医師を待たずにある程度の「医療行為」ができるようになれば「ケアが遅れず、より褥瘡悪化を効果的に防げる」と丹波看護師は記事で述べています。

■集中ケア認定看護師教育課程 2期生が入学

専門知識と高い技術を身につけ、集中治療室（ICU）などに入院する重症患者さんの看護にあたる集中ケア認定看護師を目指し、当院で教育を受ける2期生26名の入学式が9月1日に外来棟10階の第1会議室で行われました。

当院の看護・助産実践教育研究センターは、平成20年11月1日に集中ケア認定看護師を育てる教育機関として日本看護協会から認定を受け、第1期生となる24名が本年2月に卒業しています。第2期生の募集には、全国から51名もの応募があり、1.8倍の狭き門をくぐって26名が合格しました。

入学式では、甲能直幸病院院長が、近年の医療情勢や問題を挙げ「医師不足が叫ばれる中、みなさんのような専門知識とスキルを持った看護師が増えることで、良質な医療の底上げとなることとでしよう」と期待を込めた祝辞を送りました。続いて、看護部の道又元裕看護部長が、「研修は600時間にもおよびカリキュラムで、精神的にも肉体的にも辛いことがあるかもしれませんが頑張ってください」と激励の言葉を述べました。

これにちなみ、研修生を代表して柴優子さんが「認定看護師になるために日々勉学に励み、看護師としての誇りを持って力強く前進していく努力をし続けます」と決意を誓いました。最後に、尾野敏明主任教員は「道又部長はよく『人は財産である』とおっしゃいます。成人の就学者として、受身ではなく貪欲に学び、身に付けた力をそれぞれの医療現場で発揮できる看護師になって欲しい」との言葉を送りました。

26名の研修生は、尾野主任教員、伊藤有美専任教員の指導のもと、講義や実地研修、などを通じて専門知識と技術を学び、集中ケア認定看護師の資格取得を目指します。



■最新鋭のMRI装置を導入

当院は本年度2台の最新鋭MRI装置（東芝メディカルシステムズ社製）を導入いたしました。

5月から救命救急センターでVantage Titan 1.5T（Tは磁場の強さを表す単位テスト）が、9月には外来棟MRI検査室でVantage Titan 3Tが稼動しています。



MRI検査が長いトンネルの中 Vantage Titan™3T

で行なわれることをご存知の方も多いと思いますが、Titan（タイタン）の特徴は大きな開口径にあり、世界最大の71cmの広さがあります。このため従来よりも開放的な環境で検査を受けることができ、直立姿勢の保持が困難な方にも対応可能です。救命センターへ導入されたことにより、救急検査の待ち時間も大幅に短縮されました。

外来棟に設置されたTitanは国産初の3T装置で、一号機でもあるため国内外からたくさんの方が見学者が訪れています。従来の2倍の磁場強度を持ち、より高精細な画像を得ることができます。

これからもより良い診療を提供するために、人、設備の両面から向上を目指します。

■杏林大学公開講演会のご案内

杏林大学では、医療・健康などをテーマに、公開講演会を実施しています。皆様のお越しをお待ちしております。

◆国民病としての腰痛とロコモティブ・シンドローム

<平成22年11月13日（土）13:30-15:00>

杏林大学医学部付属病院 整形外科 教授 里見 和彦
三鷹キャンパス 大学院講堂 ※入場無料・申込不要

◆健康生活へのライフスキル

<平成22年11月17日（水）19:00-20:40>

杏林大学保健学部 講師 朝野 聡
調布・文化会館たづくり ※入場無料・要申込（11月3日締切）

■平成22年度杏林医学会市民公開シンポジウム

【日時】11月20日（土）13:00-15:00

食を考える：快適な人生を送るために

【場所】杏林大学医学部 学生講義棟 第一講堂

- 1) 信川 益明 慶応義塾大学医学部教授・東京電力先端医療科学・環境予防医学寄付講座「高齢者の生活支援・医療連携・生きがいづくり実現のための新たなサービスー経済産業省地域見守り実証事業、農林水産省「食」に関する将来ビジョンを踏まえて」
- 2) 志賀 元清 服部学園経営戦略室統括副室長「経済産業省地域見守り実証事業におけるレシピの開発」（レシピ開発の現場から）
- 3) 金子 明寛 東海大学医学部教授・口腔外科「食事が美味しくありません。食べるのがつらくて・・・」（口腔外科の立場から）
- 4) 吉野 秀朗 杏林大学医学部教授・循環器内科「動脈硬化と食生活」（循環器診療の立場から）
- 5) 塚田 芳枝 杏林大学医学部付属病院栄養部科長補佐「病院における食の重要性」（病院栄養部の立場から） ※入場無料・申込不要